

北森鴻『凶笑面』

2012.10.20

1、著者紹介

1961年山口県生まれ。駒澤大学文学部歴史学科卒業。フリーランスのライターとして活動する傍ら、1995年『狂乱廿四考』で第6回鮎川哲也賞を受賞して作家デビュー。1999年、『花の下にて春死なむ』で第52回日本推理作家協会賞短編および連作短編集部門受賞。2010年1月25日、山口市内の病院で心不全にて48歳の若さで死去。短編の名手で、骨董や民俗学の分野が得意。

2、著作リスト

冬狐堂シリーズ

- ・『狐畏』(1997/講談社)
- ・『狐闇』(2002/講談社)
- ・『緋友禅』(2003/文藝春秋)
- ・『瑠璃の契り』(2005/文藝春秋)

香菜里屋シリーズ

- ・『花の下にて春死なむ』(1998/講談社)
- ・『桜宵』(2003/講談社)
- ・『螢坂』(2004/講談社)
- ・『香菜里屋を知っていますか』(2007/講談社)

蓮丈那智フィールドファイル

- ・『凶笑面』(2000/新潮社)
- ・『即身仏』(2002/新潮社)
- ・『写楽・考』(2005/新潮社)
- ・『邪馬台』(2011/新潮社)

テッキ&キュータ

- ・『親不孝通りディテクティブ』(2001/実業之日本社)
- ・『親不孝通りラプソディー』(2006/実業之日本社)

裏京都シリーズ

- ・『支那そば館の謎』(2003/光文社)

- ・『ぶぶ漬伝説の謎』(2006/光文社)

佐月恭彦シリーズ

- ・『深淵のガランス』(2006/文藝春秋)
- ・『虚栄の肖像』(2008/文藝春秋)

その他

- ・『狂乱廿四考』(1995/東京創元社)
- ・『冥府神の産声』(2000/光文社)
- ・『メビウス・レター』(1998/講談社)
- ・『闇色のソプラノ』(1998/立風書房)
- ・『メイン・ディッシュ』(1999/集英社)
- ・『屋上物語』(1999/祥伝社ノン・ノベル)
- ・『パンドラ ‘Sボックス』(2000/光文社カップパノベルス)
- ・『顔のない男』(2000/講談社)
- ・『蜻蛉始末』(2001/文藝春秋)
- ・『共犯マジック』(2001/徳間書店)
- ・『孔雀狂想曲』(2001/集英社)
- ・『暁の密使』(2006/小学館)
- ・『なぜ絵版師に頼まなかったのか』(2008/光文社)
- ・『うさぎ幻化行』(2010/東京創元社)
- ・『暁英 贗説・鹿鳴館』(2010/徳間書店)
- ・『ちあき電脳探偵社』(2011/PHP 文芸文庫)

3、登場人物

- ・蓮丈那智：東敬大学助教授。「異端の民俗学者」の異名を持つ。
- ・内藤三國：那智の助手。視点人物。

「絵に描いたような好人物で、騙され易いという一点において、ある種の才能を感じることもさへある」（『狐闇 408 頁』）

- ・狐目：教務部の予算担当者。実は那智の大学の同級生。

（・佐江由美子：二作目『即身仏』の最終話に登場し、三作目『写楽・考』から那智の助手として働く。）

4、民俗学とは？

「一つの民族の伝統的な生活文化・伝承文化を研究対象とし、文献以外の伝承を有力な手がかりとする学問。日本では柳田国男・折口信夫らの主導によって独自の発展を遂げた」（広辞苑第六版より）

「民俗学に必要なのはフィールドワークと想像力である」（『凶笑面 140 頁』）

「民俗学者とはすなわち〈民俗学〉という混沌の海に形を求める人々の総称」（同 12 頁）

5、各話紹介～民俗学的な謎とミステリ的な謎の融合～

第一話「鬼封会」

民俗学：旧家に伝わる「鬼封会」と呼ばれる祭祀

ミステリ：都築常和（依頼者）の死

第二話「凶笑面」

民俗学：「凶笑面」と「喜人面」

ミステリ：安久津圭吾（依頼者）の死

第三話「不帰家」

民俗学：女の家・不浄の間

ミステリ：護屋菊恵の死（雪密室）

第四話「双死神」

民俗学：巨人伝説・製鉄民族・税所コレクション

ミステリ：遺跡の崩壊と弓削佐久哉の事故死？

第五話「邪宗仏」

民俗学：波田村に伝わる秘仏

ミステリ：御崎昭吾の死（見立て殺人）

6、終わりに

古典的な本格ミステリの定型？（本作あとがきより）